

公益財団法人鉄道弘済会

第61回社会福祉セミナー

2025年7月5日（土） 講座①

# 「新たな支援」を考える

## －これまでの振り返りから－

社会福祉法人北翔会理事長兼総合施設長 大場 信一

# 自己紹介

大学卒業後、北海道職員となる

児童相談所を主に児童福祉分野に長くかかわる

退職後（2010年4月）、児童養護施設「札幌南藻園」に勤務（施設長）

退任後（2018年4月）、社会福祉法人北翔会に勤務（2016年から理事・評議員）

2005年～ 北海道福祉サービス第三者評価推進機構

第三者評価機関認証委員会・第三者評価基準等委員会（各委員）

2006年～ 北海道における子どもの社会的養護を考える会（アドバイザー）

2011年～ 北海道子ども学会（会長：現在休会中）

2012年～ NPO法人子どもシェルターレピリカ（理事）

2012年～ 北海道ファミリーホーム協議会（顧問）

2014年～ 北海道新聞社社会福祉振興基金社会的養護児童進学・自立支援金運営委員会（委員）

2017年～ 北海道社会福祉協議会社会福祉研修所運営委員会（委員）

2018年～ 北海道児童養護施設協議会（顧問）

2021年～ 全国児童養護施設協議会（副会長）

# 社会福祉法人北翔会の事業概要

## 施設の運営

- 1 医療型障害児入所施設・療養介護事業所「医療福祉センター札幌あゆみの園」（定員184名）
- 2 障害者支援施設「札幌すぎな園」（定員50名）
- 3 札幌乳児院（定員40名）

## 事業の展開

- 1 生活介護事業（知的障害・重症者対象）
- 2 多機能型通所支援事業（重症児・者対象）
- 3 生活介護事業（重症者対象）
- 4 障害児・者短期入所事業
- 5 重症児・者居宅介護等事業
- 6 共同生活援助事業
- 7 札幌市障がい者相談支援事業、札幌市障がい児等療育支援事業、  
札幌市障がい児（者）移動支援事業
- 8 児童家庭支援センター
- 9 子育て短期支援事業
- 10 札幌市乳幼児フォスタリング事業 ほか

# 社会福祉法人北翔会の事業概要

## 社会福祉法人北翔会 基本理念

いかなる障害があろうとも、また、どのような境遇にあろうとも  
人はその存在価値において全て平等であり、等しくその人間性が尊重される。

## 社会福祉法人北翔会 運営方針

私たちは、法人の理念を基本とし、利用者の視点に立ち、  
より質の高い医療的ケア、看護、療育、生活支援を提供し、生活の質の向上を目指します。

## 2025年度事業計画

法人として

- 1 職員確保と定着・育成
- 2 法人財政基盤の確立
- 3 事業継続計画（BCP）の検証と改正
- 4 権利擁護
- 5 メンタルヘルス



札幌乳児院

# ワーカーとしての気づき

## ●中学卒業後の進路相談

家族・学校の意向を踏まえ、知的障がい者施設への入所

＊当事者本人の意向を軽視（本人活動の再会から）

## ●多面性の気づき

児童相談所のワーカー：こどもに対する支援

福祉事務所のワーカー：高齢者に対する支援

＊一人の女性が母親としての役割、嫁（介護者）としての役割

## ●「様子を見ましょう」という言葉

誰が、何を、どのように、いつまで経過を見るのかが、不明確

＊問題の先送り

# 親の『力』を奪うような対応

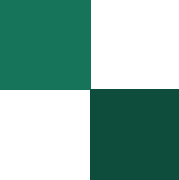
- 親の責任に焦点をあてる
- 親のできなかったことばかりに話題を差し向ける
- 親を説教する

たとえ親のやり方に問題があったとしても

- ・ 当座の解決方法であったのかもしれない
- ・ 親なりに悩んだ結果であったのかもしれない



- 親が今まで続けてきた解決方法についてどのように工夫できるのか、解決に向けた取り組みの内容に眼を向ける
- 親が解決したいと考えているテーマについてさらに詳しく聞き、知ることで、どのような対応が効果的であるのかを一緒に考える



# 相談を勧められることへの抵抗感

## (語られた言葉から)

- 子どもや自分が苦しんでいることを認めてしまうと感じる
- 自分の子育てや価値観、これまでの家庭のあり方が崩れてしまうように感じる
- 「ダメ親」と非難されているように感じる
- 「特別な子ども」と見られてしまう、レッテルを貼られてしまうとを感じる

# 障がいのある方と出会うとき

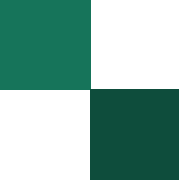
- 障がいについて、正しい理解をする
- 発達の道筋を知る
- 的確なアセスメントで「今」を知る
- 本人の思いを把握し、踏まえたうえで、「将来」を描き、支援プランを描く
- 家族（主として母親）が抱え込んでしまう背景に思いをはせる



札幌すぎな園のご利用者

# 問題を抱えるとは

- **誰が**問題を抱えていると思いかけているのだろうか
- **何を**問題と思いかけているのだろうか
- **いつから**問題と思いかけているのだろうか
- **なぜ**問題と思いかけているのだろうか
- **個別的で特別なもの**なのだろうか



# 問題解決のために

- 問題を問題として認識しているのかどうか
- 解決しようとする意欲があるのかどうか
- 解決方法を探る努力をしているのかどうか
- 資源を活用する手立てがあるのかどうか

# 何か問題があったとき

- 何か問題があったら、相談してください
- しかし、相談したからといって、正解が得られるわけではない
- だけど、真剣に語り合ったということが、正解なのかもしれない
- てっとり早く解決できることばかりではない
- 時間をかけて考えたということが、将来、必ず意味があったと思えるようになる

※ 山崎晃資氏講演資料より引用

# 今後に向けて (子どもたちとのかかわりにおいて)

子どもたちの日々の養育を担う職員は

☆子どもたちが「**生まれてきてよかった（過去）**」、  
「**ここに今いることが安全で安心（現在）**」  
「**さらに生きていくことに希望が持てる（将来）**」

と思えるように、自分を肯定的に捉えていくための働きかけが必要。  
客観的ライフヒストリーは変えられないが、主観的ライフヒストリーは変えられる。

# 子どもの思いを実現する支援

- 子どもをよく知ること
- よく知るためには、付き合うこと
- 付き合えば、生活する上での子どもの大変さや、「生きにくさ」が見えてくる
- 子ども一人ひとりの「生きにくさ」の違いしかない
- 「生きにくさ」を理解するしかない
- 子どもが激しく自分の行動で表すときには抱きしめ、付き合うしかない
- 子どもの考えが決まらないときには、どれだけ時間がかかっても、待つしかない

# 子どもたちの言葉から

## (児童相談所一時保護に入所となって)

- 望んでいたわけではない
- さまざまなことを失って、生活の場を移すことになった
- 入所の理由は理解できていても、入所の目的や支援の内容、入所期間はあいまい
- 「生まれてきて良かったと思えない」気持ちが消えない
- 問題行動と言われるが、安心できる人の前だから、安心できる場所だからこそ、問題行動が可能になることが理解されない

# 連携の意義

チームワークもネットワークも

◎「困らせている」のではなく、本当は「困っている」

☆困っている子どもを**放置しない**

☆困っている親を**追い詰めない**

☆困っている支援者を**孤立させない**

◎**一人にならない・一人にさせない**

# 必要な支援とは

- 本人（当事者）にとって必要なことをすることが支援ではないか
- どうするかを考えることがないと、どうなるかは見えない
- 意思形成支援 → 意思表出支援 → 意思決定支援  
（意思を隠される経験が乏しければ、聞いても答えられない）  
（どんな自分の思いであっても、あらわすことを妨げられない）

# 人間関係は相互理解から ーコミュニケーションの役割ー

相手のことが気にかかったり、相手と付き合う必要がある時  
まず、相手を知りたいと思う



相手を知るために情報をいろいろ集め、最終的には、直接会って話すことが必要



他から集めた外部情報には、発信した人のバイアスが入る

**\* 多くの情報に基づく場合には、ズレは少なくなる**

**\* 情報が少なければ、受け止め方の違いは大きくなる**

# コミュニケーション（マイルール）①

## －支援・相談の心構え－

- 1 問題点等、マイナス面ばかりを聴きすぎないこと**
  - ・ プラス面よりも、マイナス面に注目しがちになる
  - ・ 可能性や理想を追い求めるようになりがちだが、とりあえずは実現可能性を考えないことに留意する
- 2 事実確認にとどまらず、本人の思いを丁寧に聴いていくこと**
  - ・ 事実には、必ずその人の事実にかかわる思いがある
- 3 一方的な質問だけではなく、自発的な発言に耳を傾けること**
  - ・ 聞きたいことを聞くだけではない

# コミュニケーション（マイルール）②

## －支援・相談の心構え－

- 4 得たい答えが返ってこなかった場合には、質問方法をかえてみること
  - ・ 答えられない、答えにくいものはある
- 5 質問に答えにくそうで、躊躇している場合にはフォローすること
  - ・ 沈黙も大切な意思表示であることを理解する
- 6 聴き取った内容は、正しく受け止めているか、随時、確認しながら進めること
  - ・ 思い込みが多いことに気づくことも大切
  - ・ 人は見たいものを見ており、聞きたいものを聞いている
- 7 聴き取った内容を記録することばかりに集中しないこと
  - ・ 記録している様子は気になるもの

Everything will be okay in the end.  
If it's not okay, it's not the end.

最後には、すべてうまくいくよ。  
もし、うまくいっていないのなら、  
それは最後ではないということ。

John Lennon  
ジョン・レノン